

市内NPO法人数 32 団体
 当センター登録団体数 148 団体
 当センター登録会員数 6,673人
 3月来館者数 799人
 3月印刷機利用枚数 35,695枚

ひびき

発行枚数 650枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 島村宏之



龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。

会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や

大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。

開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。

休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日

〒301-0004 龍ヶ崎市駒馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571

E-mail r-suwan@titan.ocn.ne.jp URL <http://r-shimin.sakura.ne.jp/>



市民団体活動紹介シリーズ No.9 「さっちゃんバンド」

目指せ！市民活動日本一

Jポップサウンドの「さっちゃんバンド」

キロロの「未来へ」の爽やかな演奏に引き込まれるように、取材に伺いました。

部屋に入ると、6人のアラフィフ世代のバンドが楽しそうに練習していました！

「さっちゃんバンド」の名前の由来はずばり、ベースを弾くリーダーの仲村幸子さんからのネーミングだそうです。

グループ結成は3年前、竹屋陶板浴つながりで「楽器をやりようよ！」ということから集まり、初心者ばかりでしたが、バンドを結成し活動センターで練習しています。演奏できるのはまだ、4曲と少なめですが、今後レパートリーを増やして来年、2月の市民活動フェアのステージ参加を目標にしてがんばっていきたくと話していました。



インターネット放送「取手ひまわりプロジェクト」

「取手ひまわりプロジェクト」は、遊休農地で育てたひまわりから搾ったオイルでオリジナルの化粧品(リップバーム)を作って、ふるさと納税の返礼品にしたいと考えた聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校の先生と女子高校生が始めました。

活動を通して高校生に生活力の成長を引き出す「何と！すばらしい先生」と「上りっ放しの生徒たち」を市民活動センターに繋いだのは、龍ヶ崎市市民活動センター登録団体のNPO法人バイオライフ。

資金調達のためクラウドファンディング活動に挑戦。ALL or Nothing。この度龍ヶ崎市市民活動センターにてインターネット放送番組を収録しました。

そして、無事、目標金額100万円を達成しました！

活動の詳細やクラウドファンディングの内容については下記で見られます。

CANPFIREサイト
 ↓
 プロジェクトを探す
 ↓
 地域で探す(茨城県)



2022. 4. 17(日)開催 出席者21名

講師：久保 倫子(ともこ)氏(筑波大学生命環境系 助教)
好評だった昨年、11月の講座「龍ヶ崎ニュータウン松葉・長山地区調査報告」の続篇として、市内のニュータウン地区、農村地区、中心商業地区で生活行動と家・家族・福祉の相互関係について約100世帯にインタビュー調査実施したものが講演されました。会場での意見交換も交えて報告します。

この調査は「住民の生活の質を高めながら、誰もが住み続けられる地域を目指すために」実施されたものです。ニュータウン地区ではいつまでも住み続けたいと考えている居住者が多い。これは今の生活に満足しているから。しかしながら、ニュータウン松葉・長山地区は60歳以上が8割で、夫婦のみ世帯が約半数を占めており、子どもと家の継承について話すことはほとんどない状況。今の30代、40代は家を持たなくていいと考えている人が多い。血縁で継ぐよりも家を使いたい人に引き継ぐような空き家の利用促進策が求められています。でも、現実には子どもに家を継いでほしいと心の中で期待している親が多く、家がなかなか市場に出て来ないので、展望は厳しい状況です。

だが、子どもよりも孫に期待している親もいます。実際、長山地区では孫に自宅を継承しているケースが見られます。また、海外の事例では、空き家になると更地にして花を地域で植えて維持管理する「コミュニティ・ガーデン」といった新しい価値観で活用されているケースも出てきています。

龍ヶ崎でも、今後、将来的に親の家をシェアハウスに活用しようと考えている若い世代もいます。高齢化した人たちがいきいきと住んでいれば、大丈夫といった意見もありました。

今後も市民活動センターではこうした有意義なまちづくり講座を開催していきますので、よろしくお願いいたします。



龍ヶ崎ヒストリー第9回「女化神社飛び地の謎」

女化神社の創建は社伝によると永正2年(1505)となっていますが、郷土の民話「狐の恩返し」に関連して、狐の子孫といわれた戦国武将の栗林義長が天文7年(1538)に創建したという説もあります。

いつの時代か、原火事の類焼で社殿が全焼し、その後は駒馬村在住で稻荷信仰に篤い松田次左衛門がお宮を建て手厚く守護したといいます。ところが、幕府から俗家の身で神社を守護するとは遺憾であるとお触れがあり、同じ駒馬村の天台宗寺院、来迎院に守護を引き継いでもらいました。これにより、女化神社は日枝神社と共に来迎院が別当を務める駒馬村の鎮守となりました。その後ふたたび原火事の類焼で社殿が全焼し、来迎院の呼びかけで文久2年(1862)駒馬村の名主山崎茂右衛門などの寄進により社殿が造営されました。また、来迎院が別当を務めていた時代は初午の祭礼でお寺から女化神社まで神輿の渡御が行われたといわれています。

ところが、明治の神仏分離令によって、来迎院から独立した神社となります。その後も女化神社は駒馬村の村社として祀られ、その一角は現在でも龍ヶ崎市駒馬町の飛び地となっています。

現在の社殿は平成14年(2002)に再建された比較的新しい建造物です。なお、渡御に使われた神輿は社殿裏手の小屋で静かに眠っています。



龍ヶ崎短歌会

旅先の友より届きしデコポンは色鮮やかに微笑むことし

親たちに捧げる本と書かれたるアラバマ物語」今日完読す

岡田さち子

小嶋知葉